

広報委員会

狭山市文化団体連合会の存在を広く世間に知らしめ、理解と指示が得られるよう広報する。そのために、会報の制作・発行、ホームページの更新、市広報やその他のメディアへの情報提供、さらに狭山市における文化情報の収集を行う。

- ・目標：委員会を、会報担当部門とIT担当部門の2つに分ける方向を目指す（人員の確保）。会報担当部門は、年度計画に基づく会報づくり、狭山市の文化情報をどのように発信していけるかの検討。IT担当部門は、ホームページの組織的運用の定着、IT研修会の企画立案および実行。
- ・委員長：角南一成（市民講師協議会） 副委員長：高沢正夫（民謡協会）

文化教育委員会

「青少年文化体験フェスタ」をはじめとする文化教育面での事業内容検討と提案、および関連実行委員会の立ち上げを行う。

- ・目標：フェスタのあり方、予算の組み方などの再検討、および体験希望者増加への提案。フェスタにおける青少年ボランティアの発掘方法の検討と実行。
- ・委員長：岸野智子（劇団ホワイトるうぷ）
副委員長：高橋登希子（個人）

事業委員会

「市民芸術祭」「桜まつり」などの自主事業に関する具体案の検討と提案、および関連実行委員会立ち上げと実行委員会組織づくり。制作スタッフ部門の運営統括。

- ・目標：17年度芸術祭の、理事会意見に基づく企画立案。イベント制作スタッフの確保と活動内容について検討し、実行する。
- ・委員長：蓮沼満（本田技研工業むさしの会写真部）
副委員長：中島義実・関谷大吾（ティーンズ・クラブ）

俳連コーナー … さやま鳥虫歌…

戦災句掲げし社目に青葉
カヨちゃんてどんな子だったの戦災日
戦災日偲んで今朝はイモ御飯
身の丈で生きて還暦戦災日

古谷信太郎
渋谷みつ子
今坂清子
立花孝治

（狭山市俳句連盟提供）

狭山の玉露「伊利麻路」 -- 豆知識シリーズ（その16） --

5月29日に行われた文団連の総会のさい、来賓としてご挨拶をいただいた大野松茂氏のお言葉の中に、「さやま大茶会も皆さんのご尽力で発展しておりますが、茶業組合の若手の皆さんの働きで、抹茶『明松』と玉露『伊利麻路』を作る専門の工場を作ることが農林水産省の補助事業として決まり、また若い後継者を育成するために、文化庁の補助も受けられるよう取り組んでいる」云々、とありました。

宮岡園の人から、玉露「伊利麻路」の茶銘は大野松茂氏がつけられたこと、またその製法は、抹茶用の茶葉で碾茶(てんちゃ)を作り、それを石臼で引いたのが抹茶である。同じ葉で煎茶に仕上げ、煎じてのものが玉露だと聞いた。

1990年(平成2年)から「さやま大茶会」が始まり、「明松」や「伊利麻路」が使われているので、「伊利麻路」の名前について博物館館長・高橋光昭氏に聞いてみると、狭山市史に書いてある人間道(いりまじ)を調べるなら大野七三先生の考え方を参考にしなさいと言われた。そこで、大野七三先生の書かれた『武蔵国の国道 伊利麻路』(2003年発行)をみた。大野七三先生の「伊利麻路」を大野松茂氏が玉露の銘「伊利麻路」になさったのです。